

蕨 広報WARABI 8

2025/令和7年
わらび・902

- 令和7年8月1日発行／発行所・蕨市役所
- 7月1日現在人口：76,875人 前月比 +3人
世帯数：42,599 人口密度：15,044人／km²
- 蕨市の面積 5.11km²



～今月の特集～

- 変わらぬ平和への
思いを未来へ…………… 2

特集 変わらぬ平和への 思いを未来へ



戦後80年・蕨市平和都市宣言40周年

変わらぬ平和への思いを未来へ



平和之母子像(市民公園)

今年で終戦から80年、そして蕨市平和都市宣言から40年の節目を迎えます。平和を願う変わらぬ思いを、これからも未来へつなぐため、今月の特集では平和について考えます。

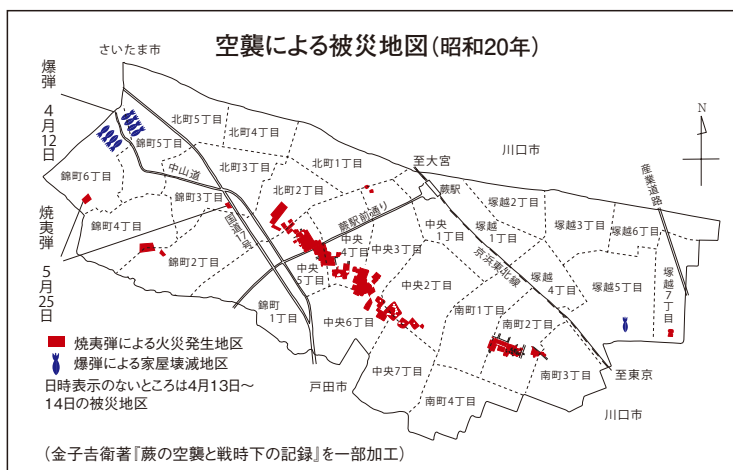
明

治時代に起きた日清戦争から太平洋戦争の終結まで、日本は多くの戦争を経験しました。特に太平洋戦争が日本の社会や経済に与えた影響は大きく、戦争のために国民生活は厳しく統制されました。戦争が激しくなるにつれ物資が不足し国民は困窮。また、戦火により民間人を含む多くの犠牲者が出ました。軍需工場が複数あった蕨は、昭和20年4月から5月にかけて、3回にわたり空襲に見舞われました。1回目は、4月12日の正午頃。錦町5・6丁目付近からさいたま市の辻に

かけて、16個の1ト爆弾が投下されたといわれています。2回目は、

13日の夜から14日の朝にかけて、爆弾と焼夷弾により、南町2・3丁目付近から現在の北小学校までの約1キロ、幅200～300メートルの広範囲が火の海となりました。3回目は5月25日の午後10時頃。錦町の民家3戸が焼失しました。これら3度の空襲による被害は死者約50人、罹災した家屋は400戸に上り、県内では熊谷に次いで2番目の被害となりました。同年8月15日に戦争が終結

してから、今年で80年の節目を迎えます。この間、日本は平和な時代を過ごすことができ、当時のことを直接知る世代は少なくなりました。これからも平和への思いを末永く未来につなぎ、戦争の悲しみ二度と繰り返さないためには、戦争の記憶を語り継ぎ、風化させないことがたいせつです。次頁では戦中・戦後を蕨で過ごした横山和子さんにお話を伺いました。





Interview

戦争の記憶

横山 和子さん（90歳・中央4丁目）

「思い出話をする同級生もいなくなってしまうので、久しぶりに当時のことを思い出しました」と話す横山さん。戦中・戦後の蕨の話聞きました。

戦争の影響は小学校にも

昭和10年に生まれてから、27歳の時に結婚を機に蕨を離れるまで、塚越に住んでいました。その後、40歳代で蕨に戻って来て、今は娘夫婦と暮らしています。私が子どもの頃はまだ、塚越は田畑が広がるのどかな地域でした。塚越稲荷社の近くに住んでいましたが、周りに高い建物がなかったたので、家から京浜東北線が走るのを見えました。

蕨第二国民学校、今の東小
学校に入学したのが昭和16年

のことです。この年、太平洋戦争が始まると、学校生活にも年々戦争の影響が色濃くなり、終戦が近づく頃には毎日防空頭巾をかぶって通学。空襲警報が発令されるとその場で道に伏せて警報解除を待ちました。無事に学校に行けた日も授業はなく、みんなが近所の畑の手伝いに。あとは、塚越稲荷社で竹やりの訓練もしましたね。小さな子どもが竹やりで敵の兵隊をやっつけようなんて、今となつてはばかばかしく、悲しいことです。

空襲警報におびえる日々

家では夜間に空襲の標的になるのを防ぐため、電球のかさに布をかぶせて、光が外に漏れないように暮らしていました。そして、空襲警報が聞こえると、急いで防空壕へ。庭に掘った穴にトタンをかぶせただけの防空壕には電気もなく、中は真っ暗。祖母と両親、私たちがきょうだいの8人家族が入ると、ぎゅうぎゅうで身動きも取れません。そんななかで警報が解除されるの

を待っていると、だんだんと恐怖が募ってくるものです。幸い、家の近くに爆弾が落ちることはありませんでしたが、三和町や土橋に焼夷弾が落ちた時は、遮る建物もない時代のことですから、我が家の方まで、「たすけてー！」と叫ぶ声が聞こえ、とても恐ろしかったのを覚えています。

これからも平和を願って

終戦は小学4年生の時ですが、それからしばらくは食糧や衣料品の配給制が続くな

ど、日本中が貧しい時期が続いたので、戦争が終わったと本当に感じるようになったのは、数年たってからのことです。

当時のことを語れる古い友人は少なく、私より年が若い人たちは、空襲や戦後の物不足を知りません。今、日本が平和であることは素晴らしいことですが、若い人たちには、かつてこういう悲しい時代があったことを忘れず、未来の子どもたちが安心して暮らせる平和な世の中を守ってほしいと願います。

▶昭和17年頃の東小学校



▶昭和19年に撮影された塚越付近



出典：国土地理院ウェブサイト



昨年の夏休み、小学1年生だった長男と北町公民館の平和事業のバスツアーで、県の平和資料館を訪れました。そこで印象的だったのは、戦時中の子どもの学校での一日を体験するというもの。空襲警報が鳴って教室から防空壕へ移動し、狭くて暗い空間の中で肩を寄せ合いました。



志水 千恵子さん

39歳・北町2丁目。3児の母

戦争当時のことを想像すると、時季的にも暑いなか、いつ出られるかも分からず怖かっただろうし、自分の子どもにはこのような思いは絶対にさせたくないなと強く思いました。私も含め、今、日本で生活していると、戦争と自分は結びつかないという人は多いと思います。しかし、戦争経験者は、そう遠くはない私たちの祖父母世代。私たちの世代が経験談の代わりにできることは、子どもたちが戦争の悲劇を学ぶ機会を作り、ともに勉強することだと感じます。いっしょに学び、考え、未来に平和をつなげていきたいです。

戦争を知らない世代へのインタビュー ～受け継がれていく 平和への思い～



武笠 彩音さん

第二中学校3年・錦町2丁目。美術部部长

3月、美術部員を対象に、平和の紙芝居「蕨の成年式ものがたり」の朗読会がありました。美術部の先輩の絵に、「シニア読み聞かせじやんけんぼん」の皆さんが脚本をつけたもので、戦時中から成年式の開催までを描いた物語です。リアルな色使いで描かれた絵や、感情のこもった朗読で、戦争の怖さをあらためて感じました。蕨が県内で2番目の被害だったことは驚きでしたし、成年式にこめられた復興への思いも知ることができ、発祥の地である蕨を誇らしく思うと同時に、平和への関心が強くなりました。

終戦後、日本は平和が続いていますが、世界では紛争が起こっています。私たちには関係ないと思わず、関心を持って情報を集め、平和な世界にするには何ができるのか考えていきたいです。そして、一人ひとりがよく考え、争いの無い平和な世界があたりまえになると良いと思います。



◀ 3月の朗読会の様子（第二中学校）

平和之母子像

昭和63年、彫刻家の故・岩田健^{いわただけん}さんの手によって刻まれた「平和之母子像」を平和の砦として市民公園に建立しました(写真は2頁上部)。この像には、戦争の恐ろしさを、戦争を知らない世代へと語り継ぎ、地球より重い命を守っていくという市民の誓いが込められています。

平和祈念碑

戦後50年・平和都市宣言10周年の平成7年、春日公園に「平和祈念碑」を設置しました。これは、彫刻家の田中毅^{たなかつよし}さんの手によって、市民の平和を祈る心を形として刻んだものとなっています。



平和首長会議

平成20年、広島県広島市長^{ひろしま}の呼びかけに応じ、平和首長会議に加盟しました。蕨市は、国境を越えて世界の都市と連帯し、核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現に向け、力を尽くしていきます。

被爆アオギリ二世

戦後70年・平和都市宣言30周年の平成27年、広島県の被爆アオギリ二世の苗木を譲り受け、市民公園に植樹しました(現在はけやき荘に移植)。また、新たに譲り受けた苗木を今年5月に市役所に植樹。親木は、昭和20年8月6日、爆心地から1,300mの距離で被爆し、幹半分が焼けたながらも焦土の中で芽を吹き返し、人々に生きる勇気と希望を与え、現在は広島県の平和記念公園に移植されています。市は、この被爆アオギリ二世を平和のシンボルの一つとして、たいせつに育てていきます。

▶(左)けやき荘、(右)市役所のアオギリ



市の平和に関する取り組み

問い合わせ＝庶務課 (☎433・7705)

平和都市宣言

昭和60年、核兵器のない世界平和を希求する市民の心を結集した「蕨市平和都市宣言」を制定。宣言後25年の平成22年には、市民の皆さんからの寄附もあり、蕨駅西口に宣言塔を設置しました。



平和都市宣言

昭和20年8月、広島、長崎に人類初の原子爆弾が投下され、早くも40年の歳月が流れました。

その間、唯一の被爆国である我が国は、恒久平和を崇高な理念として憲法に掲げ、自由と正義を愛し、世界平和に寄与してきました。

しかるに今、世界の超大国を中心とした核保有国が競って核軍備拡充を図っていることは、まことに脅威であり、この核軍拡競争に対して、世界のいたるところで、平和希求の叫びがとみに高まりつつあります。

このような国際情勢の中で、戦争は人間が起こすものであり、また人間の力によってこれを防ぐことができることをしっかりと心に刻み、平和で豊かな社会を次の世代に引き継いでいくことが、現代に生きる我々の責務であると考えます。

私たち蕨市民は、平和憲法の本質を守る立場から、非核三原則が厳守されることを強く希望し、世界のあらゆる国の核兵器の速やかな廃絶を願うものであります。

蕨市は、市民の平和を願う心を結集し、ここに「平和都市」であることを宣言いたします。

昭和60年9月9日 蕨市

※その他、歴史民俗資料館や各公民館では、パネル展示や平和の紙芝居、歌の合唱など、毎年平和を願う催しを開催しています。今月実施される催しについては、お知らせ版10頁を御覧ください。

季節感あふれる蕨の祭り

先月5日と6日、蕨駅東口一番街で「あさがお&ほおずき市」が開催されました。涼しげなアサガオと、ほんのり赤く色づいたホオズキが、訪れた人たちの目を楽しませたほか、縁日コーナーや特設ステージなどが設けられ、延べ6万人の来場者は、夏の風情あふれるお祭りを満喫していました。



まちの話題

ここでは7月上旬から7月中旬までの話題を紹介します
ビデオマークがついている話題はCATVで放映します

鉄道でまちが盛り上がる

先月12日と13日、くるとその周辺を会場に、わらてつまつりが開かれました。ミニ新幹線試乗会やこども駅長出発式、鉄道模型展示などのほか、運転士の気分を味わえるトレインシミュレータも出展。2日間で延べ1万5,000人が訪れ、鉄道を通じて大人も子ども也大いに盛り上がりしました。



野菜栽培でいきいき元気

先月16日、北町公民館の高齢者学級「いきいき学級」で、プランターファーム講習会が開かれました。農業委員の貫井辰之介さんから、栽培の基本や注意したい病気についての説明を受けた後、ミニトマトの種まきを体験。参加した24人は、和気あいあいと、野菜を育てる方法を学んでいました。



「ハローわらび」8月の番組表

市からのお知らせ・地域の話題などをお送りします

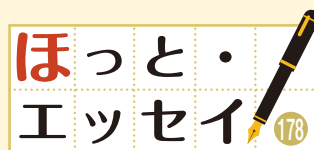
放送時間は、毎日午前9時・正午・午後3時・6時・9時からそれぞれ45分間です。

	8/1(金)~7(木)	8(金)~14(木)	15(金)~21(木)	22(金)~28(木)	29(金)~9/4(木)
00	タウンタウン みんなで歌おう童謡唱歌	市政ガイド わらび市政ほっとNews	タウンタウン ふれあい パフォーマンスショー!!	タウンタウン 認知症キッズサポーター 養成講座	市政ガイド わらび市政ほっとNews
05	プランターファームに 挑戦!	タウンタウン わらび防災大学校	夏休み子ども教室 紙模型で建物をつくろう	リトグラフで 「いきもの」を描こう!	タウンタウン 家族で学ぶSDGs みんなで学ぶSDGs
10 15	安全安心なまちづくり 組み立ててみよう! 給水タンク	特集・ウィークリープラス 西小学校3年生 1泊キャンプ	セミの抜け殻観察教室 押し花でキーホルダーと うちわを作ろう!	特集・ウィークリープラス サマーパークフェスティバル & 青少年まつり	蕨市政なう! 誰一人取り残されない 安心の学びの場を整備
20	特集・ウィークリープラス わらてつまつり2025	平和特集① 歴史民俗資料館 第36回平和祈念展 「蕨町と戦争 1894-1945」	平和特集② 戦後80年・蕨市平和都市 宣言40周年記念行事 平和の紙芝居・ 昔の遊びをやってみよう	特集・ウィークリープラス 第73回機まつり	採れたてスポット 地域の話題が盛りだくさん
30	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報	知って得する暮らしの情報

「ハローわらび」DVD／放送終了後から貸し出します 無料 詳細・貸し出し場所＝秘書広報課 ☎433・7703



先月12日、蕨戸田衛生センターで火災が発生し、当面、施設の稼働が難しい状況となりました。そのため、先月14日から16日まで、ごみの収集を停止させていただきましたが、市民の皆さん、町会の皆さんのご協力により、円滑に対応することができました。市長として、ご協力に感謝申し上げますとともに、改めて、蕨の皆さんの地域力の素晴らしさを実感しています。



蕨戸田衛生センターの火災とごみ処理、再稼働への対応

市長 頼高 英雄

市民と市長の面会日

面会日は毎月第1木曜日。今月は7日です。9月は4日です。時間は午後1時～5時を予定しています。

ご希望のかたは秘書広報課（☎433・7701）へご連絡を。

ごみ収集は市民生活に直結する課題であることから、火災発生以来、埼玉県の大野知事をはじめ、県内各自治体にごみ受入れをお願いし、多くの自治体のご協力により、先月17日から、ごみの収集を再開することができました。

施設の再稼働には、相当の期間を要する見込みで、その間、市内のごみを他の自治体へ搬送するため、収集時間が通常より遅れる場合があることや、一層のごみ減量化について、市民の皆さんのご理解とご協力をいただければと思います。引き続き、円滑なごみの収集、処理に当たるとともに、施設の早期の再稼働に向けて、全力で取り組みを進めてまいります。

衛生センター火災とごみ収集への影響

先月12日に発生した蕨戸田衛生センター火災に伴う、ごみ収集の一時停止にご協力いただきありがとうございました。県内自治体等に受け入れの協力をいただき、収集は再開していますが、電気系統の損傷により、施設の再稼働には相当の期間を要する見込みです。引き続き、ごみの減量化や分別にご協力をお願いします（詳細右欄）。

問い合わせ＝安全安心課生活環境係（☎443・3706）

1 収集が遅れることがあります

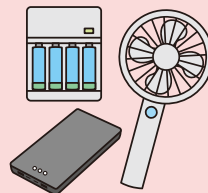
ごみ収集の終了時間が、通常と比べて大幅に遅れる地域が発生することがありますので、ご理解をお願いします。

2 ごみの減量化にご協力を

生ごみの水分を減らす、食材を使いきる、マイバッグやマイボトルを使うなど、ごみ減量へのご協力をお願いします。

3 捨てる時は正しく分別

誤ったごみの分別は火災の原因となる危険性があります。充電式電池や充電式電池内蔵の小型家電製品は、「もえないごみ」ではなく、「消火器・バッテリー」のだいたい色のかごに、また、スプレー缶は爆発防止のため、使いきってから、穴を開けずに「金属類」の青いかごに捨ててください。



※乾電池・ボタン電池は公民館等公共施設で回収しています。

りょうま
稜真ちゃん（0歳9か月）
すずき ひろひさ
鈴木 博久さん
ゆみ
由美さんの 長男
錦町6丁目



が家のアイドル

-640-

「活発でハイハイが得意な稜真は、飼っている猫といつも追いかけています。お互いにやきもちを焼きながら私を取り合う姿は、まるで兄弟のようですね。ほほえましいです。最近食欲旺盛で、お腹がすぐと大きな声で泣きながら足をバタバタさせて大騒ぎ。これからもその元気すぎるくらい元気いっぱいいますね」と、母親の由美さん。



これまでに踊った曲は500曲以上という黒河さん

輝いています

ひと

民踊・新舞踊 指導者

くろかわ ともこ
黒河 友子 さん

踊りの楽しさを伝えたい

「民踊は、歌詞に昔の暮らしが表現されていて、踊っていると懐かしさで心が温かくなるんです」と話すのは、黒河友子さん（84歳・北町4丁目）。楽しみながら踊ることをモットーに週に一度「蕨ほほえみ会」で民踊や新舞踊の指導を行いながら、現在は蕨市舞踊連盟の副会長としても活動し、踊りの魅力を地域の人々へ伝えていきます。

36歳のとき、習い事として踊りを始めた黒河さん。演歌や民謡に合わせて踊る楽しさにひかれ、毎日のように稽古に通いました。ひたむきに練習に励み、歌詞の背景まで調べるなど、表現に深みを持たせる努力も重ねると、40代か

らは宝塚劇場や国立劇場など数々の名だたる舞台に出演。華やかなステージに立ち、仲間と息を合わせて踊る楽しさに夢中になりました。

そんな踊りの世界を多くの人にも知ってほしいと、48歳からは指導者として後進の育成にも尽力。子どもから大人まで幅広い世代の生徒たちに教えてきました。お気に入り曲は、市内のお祭りなどで長年親しんできた、わらび音頭です。「歌詞に描かれた蕨の風景を思い浮かべながらみんなで踊る時間が、一生の思い出になるように」との思いから、毎年盆踊りの前には町会で練習会を開いています。初心者でも気軽に参加できるように、優しい笑顔で一人ひとりに丁寧に指導する姿には、上手に踊ることよりもみんなが楽しむことを大事にしてきた黒河さんの思いがにじみます。

先月はわらび音頭を次代につなぐ教則映像の収録に参加。今月開催される機まつりでも、市民の皆さんとともに恒例の手踊りを披露します。「いっしょに楽しい時間を過ごしましょう」と黒河さん。これから地域に息づく踊りの文化を次の世代へ伝えていきます。

今月の河鍋晩斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

—No.111—

yosai
Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の晩翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 晩斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)



晩斎筆「枯木ニ鳥図」大判錦絵

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます



詳しい内容は館ホームページをご覧ください

晩斎は明治14年（1881）開催の第二回内国勲業博覧会に肉筆画の「枯木寒鴉図」を出品し、日本画の最高賞の妙技二等賞を受賞します。その時、晩斎はその作品に100円という高値をつけたために非難されますが、晩斎の「これは今までの精進に対する値です」という主張を支持し、日本橋の菓子商・榮太樓の主人が100円のまま買い上げたことが、大きな評判を呼びました。以後、晩斎は鳥の絵の注文を多く受けるようになります。本図はその「枯木寒鴉図」に最も近い鳥図の錦絵です。

河鍋晩斎記念美術館（25日まで）

企画展「晩斎・晩翠 いきもの大集合」展
同時開催 特別展「第39回かえる」展

開 館＝午前10時～午後4時 ところ＝南町4-36-4

休 館＝火・木曜日、26日～末日

入館料＝一般600円 高校生・大学生500円

小・中学生300円 65歳以上500円

※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証のご提示を。

詳 細＝同館（☎441・9780）